

新たな生産・造林方法の導入を行いやすい国有林の特性を活かして、モデル施業地を設定し、生産・造林の効率化技術等を実証するとともに、その成果を民有林に普及することで、「新しい林業」を担う経営体の育成に貢献。

事業のポイント

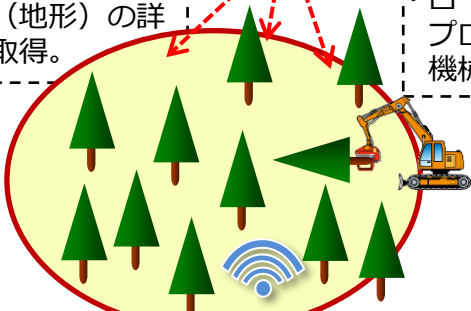
- ・モデル施業地は、まとまった一定規模で設定。
- ・導入する技術は既に実装段階（又はその直前）にあるものに限定。

※国有林において直轄で実施

イメージ1：技術の組合せによる生産の効率化・安全性向上

森林資源情報等の把握

- ・ドローンレーザ等を用いた現地調査の実施による立木・林地（地形）の詳細データの取得。



情報基盤整備

- ・現場と森林管理署等をつなぐ情報基盤の整備により、各種デジタル化技術を活用。



高性能林業機械の導入

- ・ロージンググラブプルやプロセッサ等の高性能林業機械を組み合わせ運用。

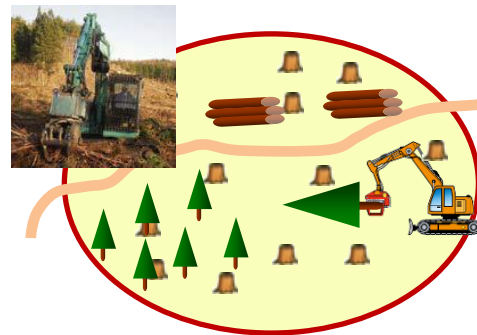


イメージ2：技術の組合せによる造林の効率化

<事業初年度>

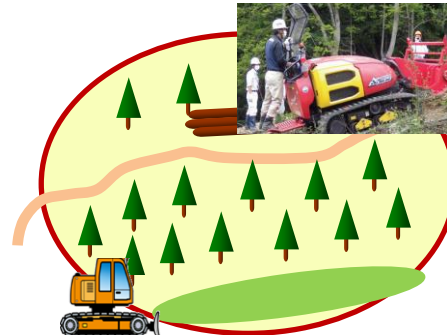
エリートツリー等のコンテナ苗を用いた伐採と造林の一貫作業システム

- ・エリートツリー等の成長に優れた苗木を導入するとともに、伐採と造林の一貫作業を実施。
- ・列幅を工夫した植付を行い、先進造林用機械により下刈りを実施。
- ・これらに必要な不可欠な路網等の基盤整備も実施。



<1～2年後>

先進造林用機械を用いた下刈り



技術の組合せによる効率化等のメリットを最大化し、その成果を民有林に普及